

福島県事故多発地点緊急対策事業について

1 目的

県民が安全で安心して暮らせる交通環境の実現を目指して、交通事故多発地点等について道路環境を中心とした詳細な事故分析を行い、交通事故の減少に向けた効果的で適切な施策の展開を図ることを目的としています。

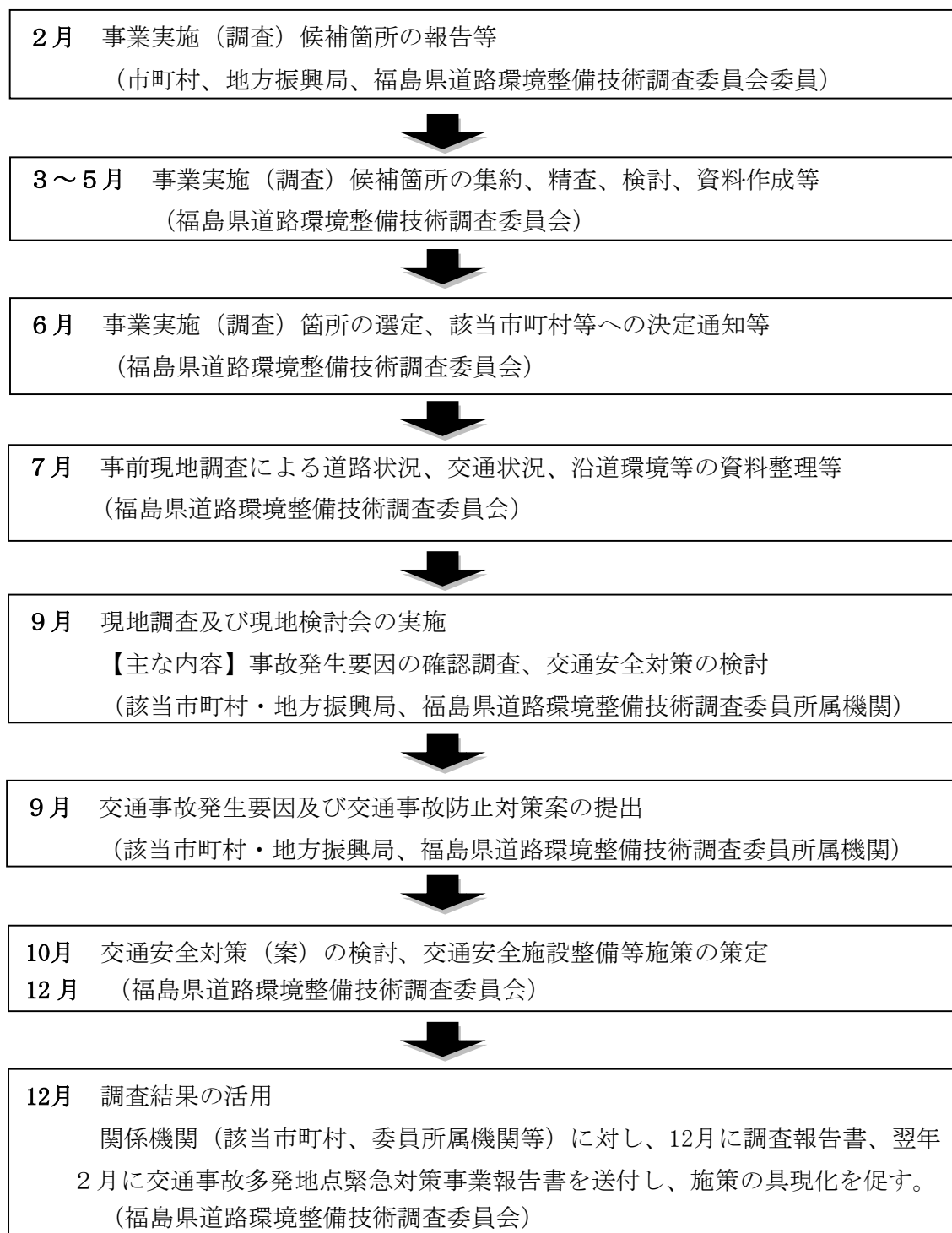
2 事業内容

福島県及び福島県道路環境整備技術調査委員会（※注参照）が、市町村等と協力し、次のとおり実施している事業です。

※注 「福島県道路環境整備技術調査委員会」

県内の交通危険箇所、交通渋滞箇所、都市交通等の交通問題を取り上げて調査研究し、その改善に役立てることを目的に設置されたものであり、地元大学等の学識経験者、国土交通省東北地方整備局各国道事務所、福島県土木部、福島県警察本部、県生活環境部、関係市町村等により構成されています。

3 事業の主な工程



2年後 事後調査

関係機関（該当市町村、委員所属機関等）に対する対策推進状況の照会及び現地確認調査を行い、2年後に発行する交通事故多発地点緊急対策事業報告書により、調査結果を全市町村・振興局、委員所属機関にお知らせする。
(福島県道路環境整備技術調査委員会)

4 調査箇所数と事業実施前後における交通事故発生件数の対比

事業実施年（調査箇所数）	実施前2年間	実施後2年間	増減率
令和 3年（3箇所）	25件	15件	△40.0%
令和 2年（中止）			
令和 元年（7箇所）	112件	65件	△42.0%
平成30年（6箇所）	96件	73件	△24.0%
平成29年（6箇所）	83件	23件	△72.3%
平成28年（6箇所）	29件	7件	△75.9%
平成27年（6箇所）	41件	16件	△61.0%
平成26年（7箇所）	74件	40件	△45.9%
平成25年（8箇所）	68件	30件	△55.9%
平成24年（6箇所）	29件	13件	△55.2%
平成23年（5箇所）	44件	25件	△43.2%

参考 福島県事故多発地点緊急対策事業の経緯

福島県事故多発地点緊急対策事業は、昭和45年に当時の県立福島医科大学生理学第二講座の御協力により、交通安全道路診断として開始したものです。当時は、高度経済成長下で交通事故が急激に増加し、“交通戦争”ともいわれておりました。

そこで、交通環境が運転者に与える影響等の人間工学的視点にも配慮して、問題のある地点に適切な交通安全施設等を整備し、さらに、それらの施設等が十分に効果を発揮できるような交通規制を実施しようと、昭和47年に福島県道路環境整備技術調査委員会を設置し、現在の活動に至りました。

福島県の交通事故死者が最も多かった昭和44年当時は死者が398人に上っていましたが、53年後の令和4年の死者数は、現行統計となった昭和23年以降最小の47人となり、約9割減少しました。

このことは、もちろん数多くの交通関係機関・団体の皆様方の長年の活動等により、県民の交通安全意識の向上が図られた成果でございますが、本事業の活動も着実に効果を現してきたものと考えております。

交通事故防止に携わる多くの方々に、広く本事業の事例を公開することにより、参考として活用していただければ幸いですとの考えから、これまでに取り組んできた数多くの事例の中から、取扱頻度が高い類似する交通環境問題のある事例をホームページに掲載しました。





本事業の立ち上げ段階から52年もの長きに亘り、特段の御指導・御協力をいただきました福島県立医科大学片平清昭教授をはじめ、福島大学永幡幸司教授、国土交通省東北地方整備局各国道事務所、福島県土木部、福島県警察本部、県内市町村等の皆様方に対し、深く感謝を申し上げます。

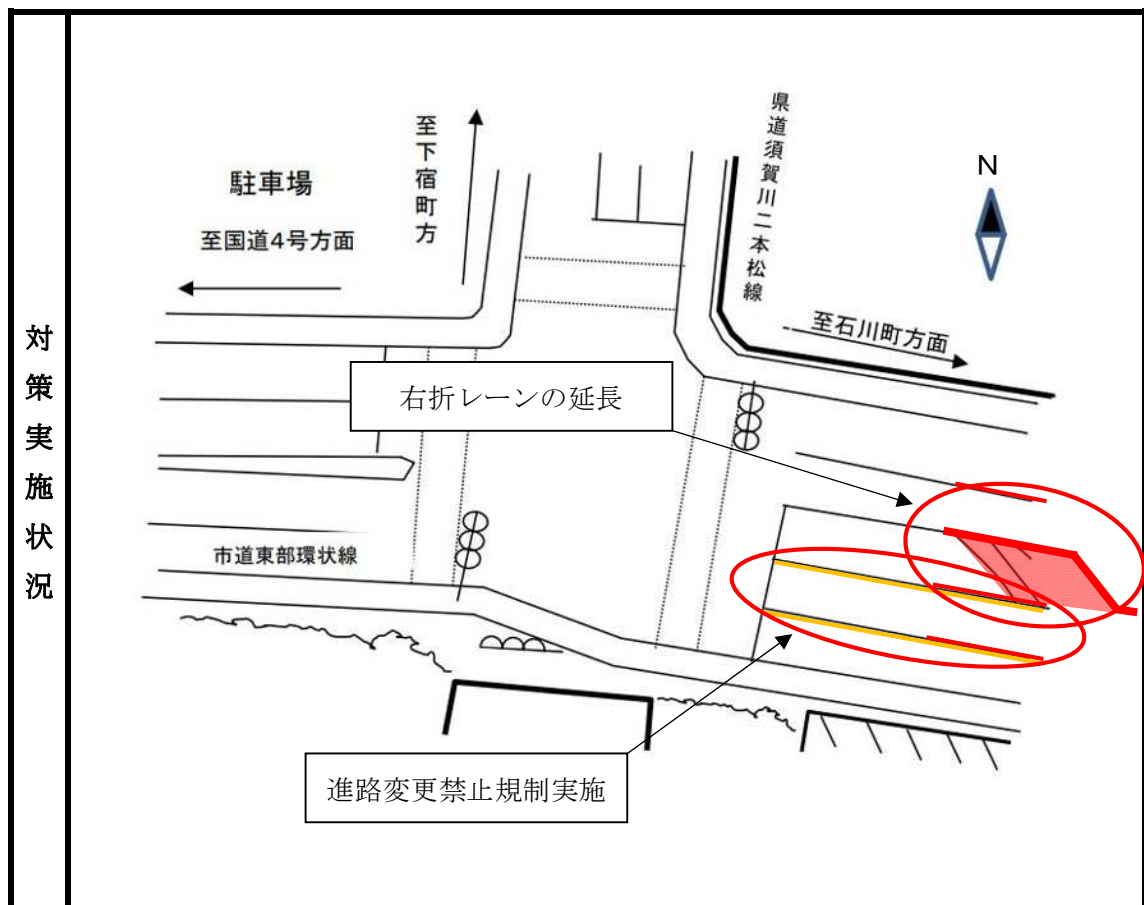
令和3年度事業箇所と交通事故発生状況比較

番号	路線名	調査場所	通称名	交通事故発生状況(高齢者は内数)								
				R1		R2		R4		R5		
				全体	高齢者	全体	高齢者	全体	高齢者	全体	高齢者	
1	主要地方道福島保原線 国道349号 市道保原箱崎線	伊達市保原町字四丁目2番地先	四丁目 交差点	件数	3	0	2	2	5	0	2	1
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
				令和3年10月27日	傷者	3	0	0	0	0	0	0
2	市道東部環状線 県道須賀川二本松線	須賀川市岩瀬森75番2先	須賀川二中入口交 差点	件数	7	2	5	2	0	0	1	0
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
				令和3年10月27日	傷者	0	0	0	0	0	0	0
3	県道原町海老相馬線 市道本町牛来線	南相馬市原町区本町一丁目150番先	資成堂前 交差点	件数	5	1	3	1	3	1	4	2
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
				令和3年10月27日	傷者	4	1	2	1	1	1	3
合 計				件数	15	3	10	5	8	1	7	3
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0
				傷者	7	1	2	1	1	1	3	0
事業実施前後における交通事故発生状況対比				実施前				実施後				
				全体		高齢者		全体		高齢者		
				件数	25	8	15	4				
				死者	0	0	0	0				
				傷者	9	2	4	1				

※全体件数 = -40.0%
 ※全体傷者数 = -55.6%
 ※高齢者件数 = -50.0%
 ※高齢者傷者数 = -50.0%

令和3年度の事例紹介（須賀川二中入口交差点）

	写真 ①	写真 ②
令和2年度の状況		
令和5年度の状況		



過去5年の事業実施箇所及び交通事故発生傾向と注意点

年度	番号	路線名	市町村名	調査場所	交通事故発生傾向と注意点
令和五年	1	正地内交差点	伊達市	伊達市保原町上保原字正地内30番地2先 <正地内交差点>	道路沿線に集客力の高い店舗が集中しており、交通量も多いため、従道路から主道路へ進入する際の安全確認不足による出会い頭事故が多発。対策として信号機を新設しており、今後、効果の検証を予定。
	2	稲荷妻交差点	伊達市	伊達市保原町大字柱田字狹田222番先 <稲荷妻交差点>	従道路東側の一時停止標識の見落としや安全確認不足による事故が多発。標識の視認性確保や道路標示の明確化等により、交差点認識を高める対策を実施予定。
	3	川廻交差点	郡山市	郡山市大槻町字川廻14番の4先 <川廻交差点>	一灯式の点滅信号機が設置された十字路交差点であり、信号の見落としや安全確認不足による事故が多発。赤点滅信号の確実な停止と交差点進入時の安全確認の徹底を。規制や道路標示等の見直しによる対策を実施予定。
	4	北登り町交差点	白河市	白河市北登り町2番5先 <北登り町交差点>	交差点西側従道路がカーブしているなどの道路環境や右折待ち車両の影響等による追突事故が多発。注意喚起路面表示の設置等による総合的な事故防止対策を実施予定。
	5	道の駅そうま西交差点	相馬市	相馬市立谷字立谷71番の1先 <道の駅そうま西交差点>	交差点形状が広く、安全確認の不十分さを原因とする出会い頭事故が多発。停止線及び交差道路直近での二段階停止等による安全確認が必要。交差点のコンパクト化や停止線位置変更等による対策を実施予定。
	6	橋本町三丁目交差点	南相馬市	南相馬市原町区橋本町三丁目30番先 <橋本町三丁目交差点>	幅員の狭さやカーブ直近などの交差点周辺の道路環境により、交差点自体や信号を見落としやすい。信号機の車灯増設や法定外路面標示等の設置により、交差点・信号機の認識を高める対策を実施予定。
	7	定西交差点	いわき市	いわき市小名浜西296番の1先 <定西交差点>	交差点の広さや交通量の多さなどの影響により、歩行者被害、右折直進車の衝突、追突事故などの事故が多発。導流線の設置や従道路側の右折矢印信号機の追加設置などの総合的な対策の実施を検討。
令和四年	1	県道河内郡山線	郡山市	郡山市富田町大字徳南39番の1先 <希望ヶ丘西交差点>	見通しの悪い交差点形状と市道から焦りによる無理な横断等で交通事故が発生している。特に市道から県道に出る際は、県道通行の自転車に十分注意を。停止線、区画線等更新予定。
	2	県道荒井郡山線	郡山市	郡山市八山西1丁目119番先～ 郡山市八山西1丁目58番地先 <四十坦東交差点及び東側沿線県道>	交通量、店舗等が多い上、看板、店舗出入車両など、注意を払う情報量が多く前方不注意での追突事故が多発。店舗出入口や交差点から右折時事故も多発。運転に集中し、右左折は慎重に。追突注意路面標示等設置予定。
	3	国道288号	三春町	田村郡三春町字雁木62番先 <雁木南交差点>	町内から国道へ右左折する際は、急な上り坂の直後に交差点に進入することになるため、安全確認しづらい。特に横断歩道上の安全確認の徹底を。国道側交差点付近は追突事故が多発。交差点照明設置済。
	4	主要地方道会津若松裏磐梯線	会津若松市	会津若松市花春町1番15号先 <花春町交差点>	観光地に至る幹線道路が交わる十字路交差点、観光客で交通量が多い。断続的に渋滞が発生し、漫然運転による追突事故や余裕のない右折、地理不案内による安全確認不足が要因の事故が発生。歩車分離式信号設置予定。
	5	国道121号	下郷町	南会津郡下郷町大字弥五島地内 <国道121号>	同所は、比較的直線が多く、カーブも少ないことから長距離運転者が集中力を欠き一過性の居眠りを催しやすく、正面衝突やすれ違い時の事故が多発。休憩を取り入れ事故防止を。中央線更新済、注意喚起看板設置予定。
	6	小名浜港湾道路1号線	いわき市	いわき市小名浜字渚1番の1先 <製錬所西T字路交差点>	交差点南側から北進する左折専用レーン走行車が、そのまま直進してしまい、2車線目から左折する車両との衝突事故が多発。車線カラー化等実施予定。
令和三年	1	主要地方道福島保原線	伊達市	伊達市保原町字四丁目2番地先 <四丁目交差点>	信号機の認識不足が要因となる事故が多い。連続する信号機や看板等の情報量が多く、注意散漫になりがち。確実な前方確認と脇道から出る車両に注意を。交差点カラー化等による対策を実施済み。
	2	市道東部環状線	須賀川市	須賀川市岩瀬森75番2先 <須賀川二丁目4交差点>	追突事故が特に多く、車線変更時の衝突事故も発生。交差点が勾配、カーブの頂点部に位置する上、渋滞発生があり、車間距離の確保や安全な速度での通行を。車線変更禁止規制や右折レーン延長等の対策を実施済み。
	3	県道原町海老相馬線	南相馬市	南相馬市原町区本町一丁目150番先 <資成堂前交差点>	信号機の見落としによる出会い頭の事故が多発。確実な前方確認と脇道からの車両に注意。交差点カラー化や交差点手前の体感舗装等の対策を実施済み。
令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止。					
令和元年	1	市道 方木田・茶屋下線	福島市	福島市野田町六丁目23番の2先 <上八木田橋北交差点>	事故発生の半数が出会い頭の衝突事故。次いで追突事故が多い。赤色点滅信号での確実な一旦停止と渋滞発生時の確実な前方注視を。
	2	市道新白河27号線	白河市	白河市新白河二丁目41番先 <新白河二丁目4交差点>	点滅信号の見落としや交差点の見落としによる出会い頭衝突事故が多発。幅員も狭く見通しが悪いので赤、黄色点滅どちら側も確実な安全確認を。
	3	市道新白河駅南湖線	白河市	白河市転坂139番先 <カインズホーム東交差点>	安全確認不足での出会い頭事故が多発。見通しが悪いので、一時停止標識のある箇所は確実な一旦停止と安全確認を。
	4	県道会津若松会津高田線	会津美里町	大沼郡会津美里町字新町160番2付近沿線	沿線の店舗駐車場への出入りに誘発される追突事故が多発。商店街付近の走行では脇見や速度に注意し運転を。
	5	国道118号(若松西バイパス)	会津若松市	会津若松市門田町大字飯寺字村西844番 <飯寺交差点>	自動車右左折時に横断歩道を横断する自転車や歩行者と衝突する事故が多発。交差点が大きく右左折時にスピードが出やすい。右左折前の安全確認を徹底し、横断歩道の自転車や歩行者保護を。
	6	主要地方道会津若松裏磐梯線	会津若松市	会津若松市宝町1番18号 <小田橋交差点>	追突事故が多く、次いで右折直進の衝突事故が多発。交通量が多い上、連続した信号交差点で渋滞が発生するので、車間距離の確保と確実な前方注視を。
	7	県道小名浜・平線	いわき市	いわき市鹿島町下矢田字曲田47番先 <いわきニュータウン南入口交差点>	追突事故が最も多く、次いで右左折時の衝突事故が多発。ニュータウン側からの下り勾配で追突事故が多い。速度の出過ぎに注意し早めのブレーキを。